

2007 (平成19年)

理事長 田中 雅之

個を知り今を創る力

出来事

- 1月** ●京都会議
●第1回定時総会・例会（本町会館）
- 2月** ●例会「障がい者就労支援」
（松山市総合コミュニティセンター）
- 3月** ●例会「本気で子供と向き合え！」（今治国際ホテル）
- 4月** ●わかつばきファンド受給者証授与式
●松山春まつり お城まつり
●例会「4月新入会員入会式および正会員証授与式」
（松山市総合コミュニティセンター）
- 5月** ●例会「京都会議つなげ～に？」
（松山市総合コミュニティセンター）
●第37回四国地区愛媛ブロック会員大会（新居浜）
●愛媛ブロックスポーツ交流大会（新居浜）
●第57回JCI ASPAC チュンリー（台湾）
- 6月** ●第26回全国城下町シンポジウム（上越）
●第20回わんぱく相撲まつやま大会
●第54回四国地区フォーラム（大洲）
●例会「誇り ～伝えようこの日本のあゆみ～」
（松山市総合コミュニティセンター）
- 7月** ●例会「7月新入会員入会式および正会員証授与式」
（松山市総合コミュニティセンター）
●サマーコンファレンス（横浜）
●第23回わんぱく相撲全国大会
- 8月** ●松山JC創立記念パーティ
●第10回俳句甲子園（優勝・開成高等学校A）
●第1回臨時総会・例会「まつやま市民シンポジウムについて」
（松山市総合コミュニティセンター）
- 9月** ●第24回まつやま市民シンポジウム
●例会「骨髄バンク説明」（常盤同郷会）
●第4回親守うた ～SONG&MESSAGE～
●第56回日本JC全国会員大会（帯広）
- 10月** ●例会「検証 モンスター・ペアレント
～大人として誇りある背中を子供に見せていますか？～」
（松山市総合コミュニティセンター）
●市民団体との交流・支援事業
- 11月** ●第62回JCI世界会議（トルコ・アンタルヤ）
●第2回定時総会・例会「堀之内の検証」
（松山市総合コミュニティセンター）
- 12月** ●例会「卒業式・懇親会」（松山全日空ホテル）



▲1月 新年会で挨拶する田中理事長



▲4月 大街道を歩く坊ちゃんとマドンナ（春まつり）



▲6月 四国地区フォーラムの後の懇親会（肱川河川敷）

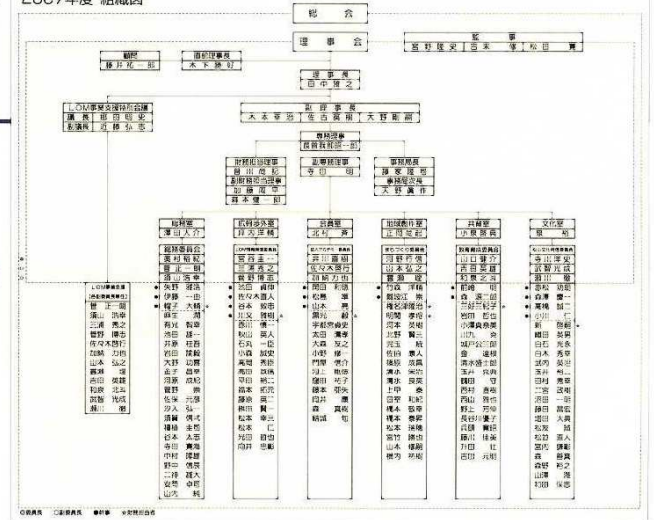
2007年 松山市の動き

- 1月 「美しい日本の歴史的風土」に松山城、道後温泉が選定
- 4月 坂の上の雲ミュージアム完成
- 4月 道後温泉本館周辺整備完了



▲5月 熱戦を繰り広げたビーチバレー（スポーツ交流大会）

2007年度 組織図



日本万国博覧会



▲6月 わんぱく相撲各学年優勝者とJCメンバー

8月 前年度優勝校を先頭に入場行進（俳句甲子園）



▲7月 20名の新しい仲間を迎えた7月新入会員入会式



▲9月 人口17万人の帯広で盛大に開催された全国会員大会



▲10月 100名を超える参加者が和やかな雰囲気と交流した（交流・支援事業）

社団法人松山青年会議所2007年度理事長所信

社団法人松山青年会議所

田中 雅之

・はじめに

(社)松山青年会議所の55年の歴史を継承していく。

言葉にするのは簡単ですが永きに亘る青年会議所の軌跡・先人達の英知や並々ならぬ努力・数多の賞賛されるべき事業・・・何れも、正直なところ現役全員が全てを熟知しているわけではありません。

しかし、そう安穩としてはいられない時が来ました。私自身、松山 JC の一人として、そしてメンバーである皆さんが JAYCEE として、松山青年会議所 55 年の歴史の重さを鑑み、先輩諸賢の意志を継ぎ、JC の理念を継承し、変革の活動をなすべき時であると考えます。

事業を行うにあたり、活動意志を起点として目的を持ち、手段としてイベントを開催します。時代とともに目的は形を変えなければなりませんし、手段も回を重ねるごとに向上し、必要に応じ時代に即した内容にならなければいけません。目的と手段、この二つが揃っているものが青年会議所の事業です。

しかし昨今、その各事業を執り進めるべきメンバー数の減少・資質の低下が各地青年会議所の問題・最重要課題として取り沙汰されている事は言うまでもありません。しかしながら、これに伴った「会員拡大」に関しては事業としての扱いではなく、数値的満足といった意味でしか捉えられていないのが現状です。会員数の増強は、LOMの存続・事業の拡大・予算の問題・全ての事に密に絡んでいる要素であり事業というよりむしろ「基本運動」であると考えます。数字上の拡大もさることながら、メンバー個人の資質向上にも力を入れるべきであると考えます。地域での JC 活動を考えるとき、実際に青年会議所メンバーとしての修練度は LOM 内メンバーとの比較でしか過ぎないのが現状であり、現実でした。現下の松山青年会議所が次のステップアップを目指す為に新しい手法を用いるには、もっと多くの青年会議所メンバーと交わって見聞を広めて、修練度を上げて頂きたいと思えます。

そのために松山 JC メンバーは、出向する事によって足下を見つめ直し、視野を拓き見識を広めた変革を行って欲しい。チャンスが目の前にあって実行しないほど勿体ない事はありません。

そして、修練度の上がったメンバーが様々な事業を行い、地域への貢献を通じ、自らの意思でより良い社会を築こうとする人々を導く「市民意識の改革」を推進してゆく事が55年の歴史に新たな56年目を加える事となり、今後の歴史の道しるべと成り得るものと確認しております。

・さいごに

今後の松山 JCをより良く継承していくために、二つの柱を掲げたいと思えます。

一人のJAYCEEとして全ての事業に参加できる会議所にする

一人のJAYCEEとしてより素晴らしい修練を行って奉仕の精神を強め、多くの友情を作る

私は松山 JCに誇りを持ち続けたい。誰もがいつしか松山 JCを卒業します。その時には、全メンバーが様々なリーダーへ成長していると信じて共に活動していきます。

【スローガン】

「個を知り今を創る力」

-受け継がれゆく松山青年会議所の力として-

The Wisdom of Crowds:集団知

「同行には必ず一智有り」とは、まさしく青年会議所らしい。三信条を基本とした青年会議所の理念、これは会員各々が個別の理念であり、それぞれ異なった理念を言動として表現する事によって「明るい豊かな社会を築き上げる」力が生まれ、日本の未来へと継承されるのだと信じています。

【基本方針】

<JAYCEEである>

「青年会議所という組織の一員」である。単純なようで難しい。

JAYCEEとしての意義、組織の在り方、会議所たる所以、規則の認識、全てにおける JC的ファンダメンタル(基本)を、新入会員だけのカリキュラムにとどまることなく全会員で共に学んで行きましょう。

HD(Human Development:人間力開発)とLD(Leadership Development:指導力開発)を基軸として、CD(Community Development:社会開発)と MD(Management Development:経営開)も学んで行きましょう。

<個々を知る>

JC 活動は無論一人だけでは出来ません。

会員同士の個々の理念を意見交換する事によって様々なベクトルを生み、より熟成された理念になります。あえて、多くの人と多くの事業に共に参加してみてください。必ず新たな理念を感じ取れるでしょう。

<組織を見る>

LOM (Local Organization Membershp)という単語が示すように、松山 JC は松山という地域の一個の青年会議所の理想で形成された団体であり、「全体」ではありません。松山があり愛媛ブロックがあり、四国地区があり日本がある。そして世界へと広がり構成するのが青年会議所です。

LOM だけに留まる事無く、大いに広がりを持った事業活動へ、また会員同士の交流へと躍進するために、出来る範囲でちょっと頑張って、参加して行きましょう。

<事業に参加する>

JC 事業に参加する上で「何を目的としているのか」を常に考えながら活動して下さい。

目的は時代と共に進化します。進化する目的と共に自分自身も向上すればより洗練された事業にも JAYCEEにもなるでしょう。

<同志を募る>

これらの JC活動を行っていくにあたり、同志は多ければより良い活動が出来ると思います。一人の優れた者の能力よりも、多くの人が集まり出した能力は優れているからです。

松山 JCを、共に愛し活動する人をより多く募っていきましょう。